

課題総括と論点



1. 東北開発促進計画(第五次)フォローアップ……………P 2
2. 東北圏の現況特性(特徴)……………P 4
3. 東北圏の強み・弱み……………P 8
4. 全国計画における共通課題……………P 12
5. 課題総括と今後の検討に当たっての議論のたたき台……………P 13

1. 東北開発促進計画(第五次)フォローアップ

(基本方針)

～多彩なライフスタイルの展開が可能で、暮らしやすく活力ある東北～

(計画の戦略目標)

1. ゆとりある暮らしの中で、自然の恵み、都市的サービスを楽しむ東北

(ゆとりある暮らしを営むために・自然の恵みえお守り、味わうために)

- ・居住環境の整備、多自然居住地域、高齢等が安心して暮らせる環境整備、美しい地域づくり、都市のネットワーク形成、雪と共存、半島・離島地域、自然と共存する地域整備、中山間地域等の活性化、災害に強い地域づくり、国土の保全と管理、循環型社会の構築

(計画の戦略目標)

2. 世界の人々やもの、情報文化が交流する開かれた東北

- ・東北のラダー型地域構造形成、広域国際交流圏「東北」の形成、広域連携による地域づくり、首都圏との連携と交流

(計画の戦略目標)

3. 魅力ある職場が存在し、産業に活力のある東北

- ・研究開発機能の充実、産業育成、産業構造の強化、農林水産業の展開、人材の育成、エネルギーの安定供給、地域金融の充実

「今後の発展の課題(1)」

東北の競争力・地域の自立に係る課題

(地域内発型の産業創出)

- ・産学官連携などによる地域内発型の新産業型の新産業創出に向けた取り組みを具体的な事業に結びつけていくことが必要。
- ・サービス産業をどのように高度化し、集積させていくかが大きな課題。

(交通体系の整備)

- ・東北におけるラダー(梯子)型の地域構造の形成に向けた交通基盤整備は、未整備の区間は残されている。
- ・人口減少下で生活の利便性を確保するためには、モビリティを高め、広域的に都市機能のアクセスを確保することが必要。
- ・東北地方は都市間距離が他地方に比較して長いことから、地域の交通体系整備の重要性は高い。
- ・輸送コスト低減の観点等から、自地域港湾の効率性を高めるための広域的な利用を推進する必要。

東北開発促進計画(第五次)フォローアップ報告書(H18.1 国土交通省 国土計画局)資料より抜粋

(観光振興)

- ・広域連携による取り組みを進め、観光商品における「東北ブランド」を確立することが必要。
- ・各地域で良好な風景・景観の保全・創出、特産品の開発、訪れる人に快適な雰囲気づくりに取り組んでいく必要がある。
- ・新しい傾向に対応した環境づくり、効果的な誘客・情報発信が必要。

(農林水産業の振興)

- ・農林水産業の振興は、「東北らしい」風景の保全、生態系の維持などの環境の保全、人口減少・高齢化の影響を最も受ける中山間地域の活性化のためにも重要な課題。
- ・農産物やその加工品の地産地消、それらを活用したコミュニティビジネスの創出などをさらに進展させることは、地域の自立性を高めるかんてんからも重要な課題。

(海洋・沿岸域の利用と保全に係る課題)

- ・東北には世界有数の好漁場である三陸沖や、養殖業等に適した陸奥湾、仙台湾など優良な漁場があり、こうした海洋・海域の環境を保全し、水産資源を適切に管理することは重要な課題である。

1. 東北開発促進計画(第五次)フォローアップ

「今後の発展の課題(2)」

東アジア等との国際連携に係る課題

(東アジア等との国際連携)

- ・東アジア等の急速な経済発展を活かした地域の活性化について、東北においてもその具体化を図ることが必要。
- ・東北の外国人訪問率、外国会社事業所の比率、人口当たり輸出額などは低い水準。
- ・**マーケティング戦略**や**プロデュース力**を持つ人材の確保
- ・ターゲットを明確にするための海外現地情報の的確な把握
- ・地域の空港・港湾の利便性・アクセスの向上による**陸送コストの削減**、**需要集約と役割分担による定期路線・航路の充実**
- ・**地域資源を活かした高付加価値品の開発と地域ブランドの確立**
- ・行政支援の見直し。
- ・県を超えた広域連携の促進(海外進出のノウハウの共有、「東北ブランド」確立等)

「今後の発展の課題(3)」

良好な環境の保全・創出に係る課題

(自然環境の保全・管理)

- ・東北は**貴重な自然資源**が豊富に存在し、これらは**次世代**に受け継ぐべき貴重な財産である。
- ・自然環境の保全は今後の人口減少に伴い、**里地・里山の管理**が困難になることも見込まれ、**市民参加**、特に**都市住民と農山村住民の協働**を進めていくことも重要な課題である。

(循環型社会の形成への貢献)

- ・東北の特色を活かしたり**リサイクル**、**新エネルギー活用**の取組みを進めることは、循環型社会の形成、**地球環境問題の解決**にも**貢献**することにつながり、今後とも取組みを広げていく必要がある。

「今後の発展の課題(4)」

生活の安全・安心・安定の確保に係る課題

(防災・減災)

- ・地震・津波、風水害等の災害対策における広域連携、防災施設の整備、災害ボランティアとの連携や、情報の早期伝達など、災害への備えを充実していく必要がある。

(地域医療等の充実)

- ・医療施設の広域的な連携による利便性の向上、**救急医療機関へのアクセスの確保**等も重要な課題である。

(過疎・中山間地域の振興)

- ・他地域に比較してウェイトが高い**農業**、或いは**地場産業の高付加価値化**を図るとともに、**伝統文化**や**自然を活かした観光の振興**も重要。
- ・特に**グリーン・ツーリズム**などの**体験型観光**、**都市・農村交流**について様々な取組みが行われており、**総合的な支援**を行っていく必要がある。

- ・農山漁村等の同一地域に滞在する「**二地域居住**」の**拡大**も重要な視点。新たな視点による交流人口、二地域居住人口の拡大を図るため、効果的な情報発信や受入れ体制の整備等の課題に取り組んでいく必要がある。

(地方都市の再生・中心市街地の活性化)

- ・中心市街地には都市機能が集積しており、そうした「**既存ストック**」を活用することは、**高齢者**などにも暮らしやすい生活環境を「**効率的に**」**整備**できる可能性がある。

(雪との共存)

- ・高齢者にとっては、**冬を安心して過ごすことができるような生活支援**等が必要であり、ボランティア活動等の**支え合いの仕組みづくり**が地域社会の維持のための課題となっている。
- ・**雪の有効活用**の促進、**豪雪地帯特有の課題の解決**について「共存と対策」という観点から、個別の対応および**広域連携**における有効策を検討していく必要がある。

2. 東北圏の現況特性(特徴)

東北圏の現況特性・特徴(1)

【 】書きは、「東北の概要」資料の指標番号
赤字は、強み・弱み

現況整理項目	整理指標	東北圏の現況特性・特徴
0 東北圏の概況	面積、人口、GDP 地形、海岸線、土地利用、水資源 財政力	欧州中規模諸国と同程度の経済規模【0-3】 <u>圏域の7割が森林</u> 【0-6】 <u>豊かで良質な水資源</u> を有する【0-8】 財政的に厳しい現状【0-11】
1 人口の概況	都市別人口規模および推移 都市別高齢化率および推移 社会増減の状況	人口は全国の約1割、欧州中規模諸国と同程度【0-2】 人口30万人以上の都市が6都市存在【0-4】 全国を上回るスピードでの <u>人口減少、高齢化の進展</u> 【1-2】 自然減のみならず、全国で最も <u>転出超過の状況</u> にあり、人口減少に拍車【1-11】 中山間地域および沿岸部を中心として、著しい <u>人口減少と高齢化の進展、コミュニティ維持を懸念</u> 【1-9】
2 ものづくり・産業基盤、インフラの状況	圏内総生産額の推移 県民所得に見る地域格差 産業別圏内総生産額 製造業の状況 商業環境の状況 公共交通機関の状況 下水道の整備状況 港湾と自動車専用道路	人口規模に見合った圏内総生産額、 <u>人口一人あたり所得額や最低賃金等を見ても格差あり</u> 【2-2】 圏内の県内総生産額合計の内訳では、農林水産業に特化【2-1】 工場立地件数は、首都圏、中部圏に次ぐ勢い【2-12】 特徴的で <u>好調な製造業</u> 、IT産業の存在（山形カロッツェリア、関東自動車等）【2-10】 バス輸送人員の減少、廃止路線数の増加、モータリゼーション化の進展【2-16】 高規格幹線道路網の <u>ミッシングリンクが多く存在</u> 【2-20】 空港港湾と自動車専用道路とのアクセス性不足【2-21】

2. 東北圏の現況特性(特徴)

東北圏の現況特性・特徴(2)

【 】書きは、「東北の概要」資料の指標番号
赤字は、強み・弱み

現況整理項目	整理指標	東北圏の現況特性・特徴
3 国内外との 接続状況 (東アジアとの経済の結びつき)	空港立地と利用状況 港湾の立地と利用状況 国外との移動状況 外国人登録者数、外国人留学者数 アジアとの経済的繋がり(貿易等)	国際線利用は全国と比べ低位、国内利用も近年は頭打ち【3-2】 空路による出入国外国人は、アジア方面が大半【3-6】 港湾利用による輸送量は増加傾向、仙台と新潟では品目、行先などで差違が見られる【3-10】 国外輸出貨物量は、全国に比べアジア方面のシェアが大きい【3-21】 外国人留学者の割合は低位、出身国はアジアが大半【3-34】 アジア・ロシア方面への地理的優位性の活用【3-11】
4 観光、交流の 状況	観光入込客数の状況 観光資源の概況 月別観光入込客数状況 観光入込増加率 観光入込客数の増加・減少要因 外国人観光客の推移 外国人観光客誘客の取組(花巻)	自然、温泉、歴史・文化資源を活かした観光施設に人気が集まる【4-1】 温泉数が多く、寺社、遺跡、祭りなど歴史文化資源の高い評価【4-5】 祭りなど、夏期の入り込み客数が多く、冬季は少ない(天候不順、スキー客の不振)【4-3】 外国人観光客は着実に増加、アジアからの観光客が多い【4-7】 広い国土に点在する観光施設、二次交通に時間かかる 【第3回幹事会資料(東北運輸局)】
5 IT関連基盤の 状況	ブロードバンド普及率、インターネット利用行動者率 大学発ベンチャー企業、共同研究	ブロードバンド普及率等が未だ低い【5-1】 一方で、大学発ベンチャーではIT分野が卓越【5-3】 広い国土に留意しつつブロードバンド普及やデジタル放送に対応【5-2】
6 防災・減災の 状況	災害履歴 風水害等状況 土砂災害 災害発生確率、防災組織率 防災対策	東北圏は地震多発地帯、活火山の2割が存在、風水害履歴も多い【6-1】 土砂災害は新潟県が突出【6-8】 今後も宮城県沖地震等が懸念されるなか、防災組織率が低いなど課題も【6-9】 治安の向上、防犯対策など、安全安心を確保する取組 【第3回幹事会資料(東北管区警察局)】

2. 東北圏の現況特性(特徴)

東北圏の現況特性・特徴(3)

【 】書きは、「東北の概要」資料の指標番号
赤字は、強み・弱み

現況整理項目	整理指標	東北圏の現況特性・特徴
7 利雪・克雪の状況	豪雪地帯指定状況 冬季通行不能区間 雪害状況 雪を活用した取り組み	東北圏の 8割は豪雪地帯 であり、冬季積雪等厳しい条件【7-1】 冬季通行不能区間 延長比が最も高く、ハンデ【7-2】 冬季事故の割合が高い、雪害被害が大【7-3】 雪エネルギーなど 利雪に向けた取組 も【7-4】
8 多様なエネルギーの状況	発電所の立地、出力 原子力発電の状況 新エネルギーの利用状況 海底資源の分布	圏域内の 発電出力量は原子力が卓越 【8-1】 原子力リサイクル施設等、特徴的施設の立地【8-1】 東京電力の発電所が、福島県、新潟県に存在 (水力、原子力)【8-2】 風力発電の取り組みが盛ん。バイオマスへの取り組みも注目【8-3】 全国でも貴重な海底油田が存在【8-6】
9 医療サービス等提供の状況	医療施設の立地状況 医師の充足状況 三次救急医療施設の状況	病院等立地は全国平均以下 、特に中山間地域や沿岸域で不足【9-1】 医師数は近年増加傾向だが、 全国平均と比べ不足 【9-3】 三次救急施設のカバー率は、 全国的にも低位 【9-4】
10 多様なライフスタイル、多様な主体の協働	住宅延べ床面積 人口密度 二地域居住 ボランティア活動の状況 NPO承認団体	延べ床面積は全国平均以上でゆとり有り【10-1】 人口密度も低密度で、更に低密度化が進む【10-2】 首都圏を対象に、二地域居住受け入れ可能性が大【10-3】 NPO法人承認数は低位だが、 ボランティア活動自体は盛ん 【10-4】

2. 東北圏の現況特性(特徴)

東北圏の現況特性・特徴(4)

【 】書きは、「東北の概要」資料の指標番号
赤字は、強み・弱み

現況整理項目	整理指標	東北圏の現況特性・特徴
11農林水産業の現状	食料自給率 農業、林業、水産業の状況	食料自給率は各県とも全国上位だが米に依存【11-3】 農業産出では米および果実のシェアが高い【11-6】 農産物のブランド化 への取り組み【11-9】 林業産出額は減少傾向、国内シェア低下傾向、従事者は高齢化しているものの、全国平均より良好【11-11】 全国屈指の漁港を有し、 水揚げ量も多い 【11-14】
12都市と農村(中山間)の状況	都市の低密度化、郊外化 中山間地域の状況 都市と農村の交流 交流事例	市街化区域内人口密度は減少【12-1】 大型小売店舗の多くは郊外に立地【12-2】 存続困難な集落 は日本海側を中心に存在、耕作放棄地の増大【12-6】 全国的に田舎暮らしへの意向高まる【12-10】 東北圏提供の 滞在型プログラムは多種多様 、受け入れ態勢も整いつつある【12-10】 広域的な 交流の取り組み等 も豊富【12-11】
13環境・リサイクル	名水百選の選定状況 海岸の保全状況 産業廃棄物の搬入搬出 温暖化による東北の影響	湧水、清水など 名水の存在 【13-1】 海岸浸食が進行し美しい海岸景観づくりに向けた取組が必要【13-2】 首都圏の産業廃棄物は、隣接する東北圏にも流入【13-3】 温暖化は、東北圏独自の農産物等にも影響【13-6】 広域的なエコロジカルネットワーク形成の取り組み 【第3回幹事会資料(東北森林管理局)】

3. 東北圏の強み・弱み

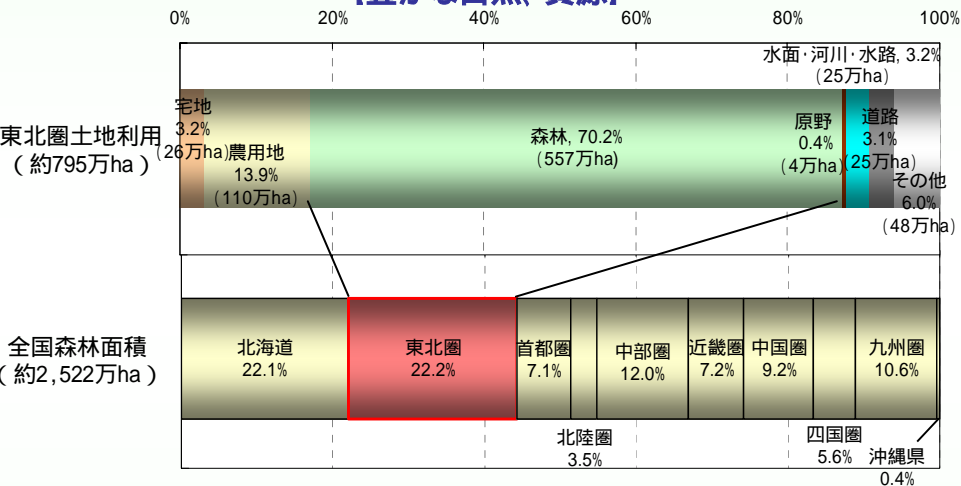


- ・豊かな自然、資源を有する
- ・特徴ある農林水産業
- ・独自の生活文化
- ・エネルギー供給



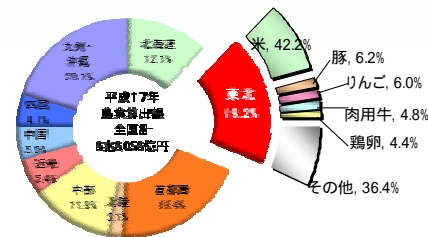
広大な山林面積、豊かな水資源、自然文化遺産
 ブランド米や水産品など、全国的知名度ある産品が多い
 雪を活用した取り組み、歴史文化を活かした観光
 原子力発電出力は全国の4割、東京電力域外発電所が多数立地

【豊かな自然、資源】

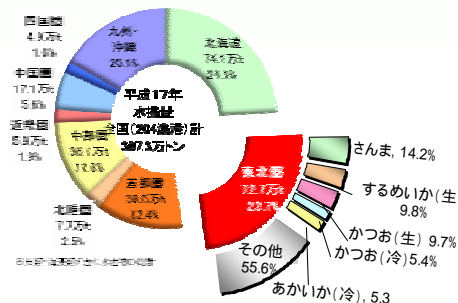


【特徴ある農林水産業】

農業産出額 (平成17年)



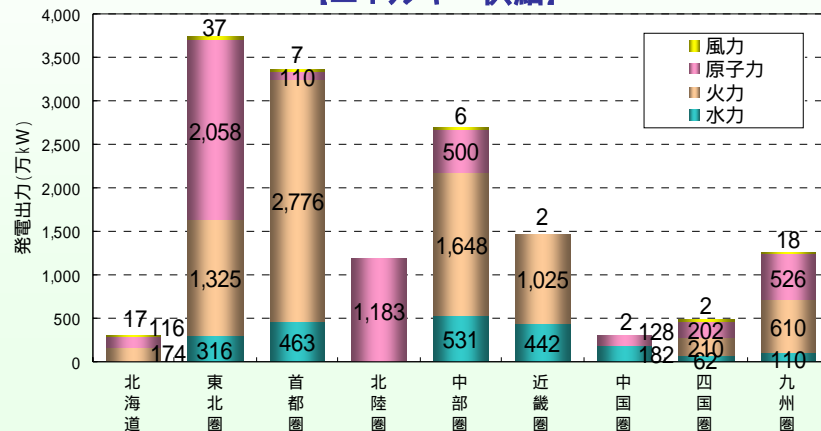
水揚量 (平成17年)



【独自の生活文化】 雪の活用



【エネルギー供給】



3. 東北圏の強み・弱み

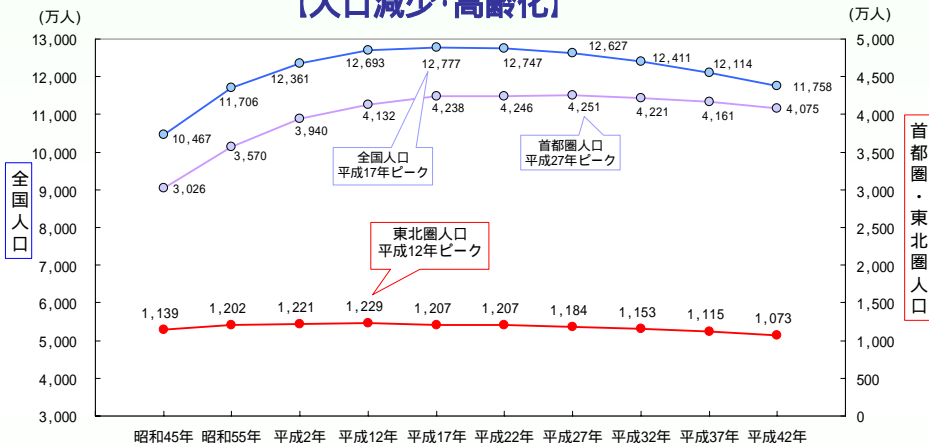


- ・著しい人口減少、高齢化
- ・冬季積雪寒冷
- ・災害多発地帯
- ・脆弱な基盤

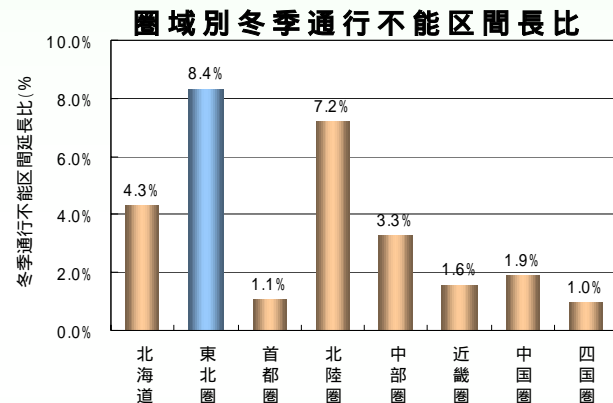


全国を上回るスピードで人口減少、高齢化、集落消滅の危機も
8割が豪雪地帯、冬季通行止め区間も多い
地震多発地帯、全国の活火山の約2割が東北圏に
ミッシングリンクの存在

【人口減少・高齢化】

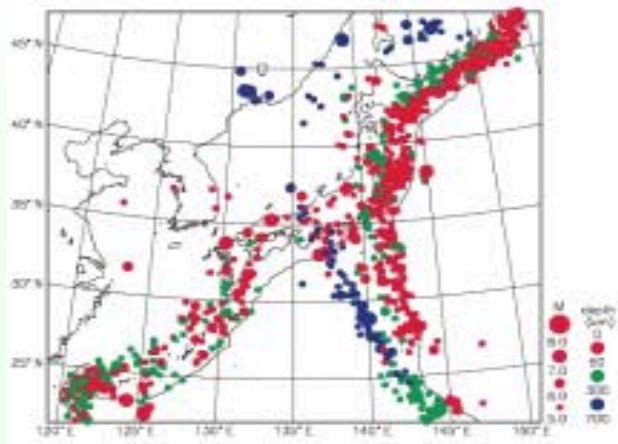


【冬季積雪寒冷】



【脆弱な基盤】ミッシングリンクの存在

【災害多発地帯】日本付近の地震活動(H8～H17)



「ミッシングリンク」：幹線道路などの交通ネットワークの欠落区間

3. 東北圏の強み・弱み



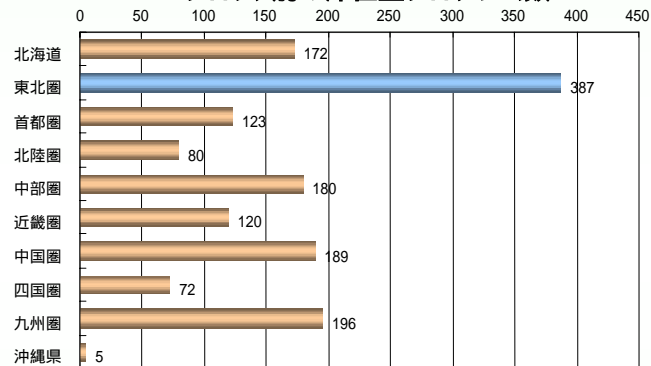
- ・多様なライフスタイル
- ・担い手、主体の成長
- ・情報通信技術の発達
- ・地域産業の存在



都市と農村の交流活発、各県でユニークな事例多い
ボランティア活動の取り組みは全国と比べ盛ん
大学発ベンチャー等増加傾向、IT分野の割合高い
堅調な製造業

【多様なライフスタイル】

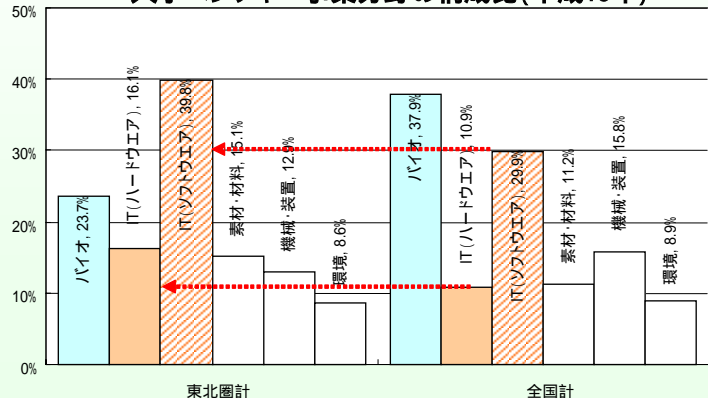
ブロック別の滞在型プログラム数



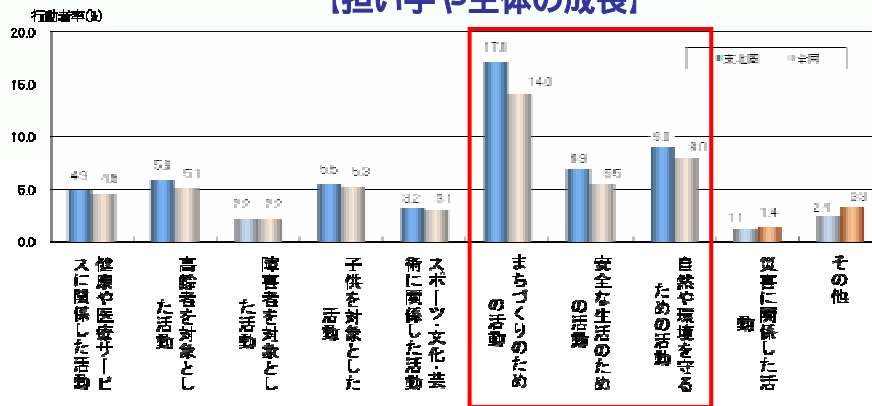
滞在型プログラム：田舎暮らしを体験してみたいという「短期型」、都会に拠点をあきつつ田舎暮らしを楽しむ「長期型」とに分類される。各市町村から提供されているプログラム

【情報通信技術の発達】

大学ベンチャー事業分野の構成比(平成16年)

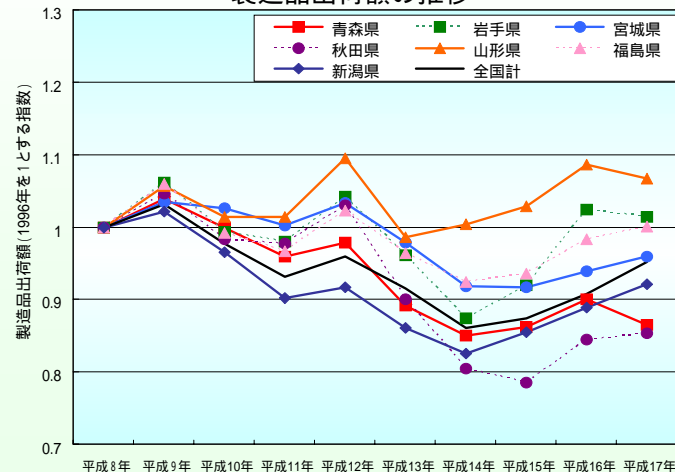


【担い手や主体の成長】



【地域産業の存在】

製造品出荷額の推移



3. 東北圏の強み・弱み

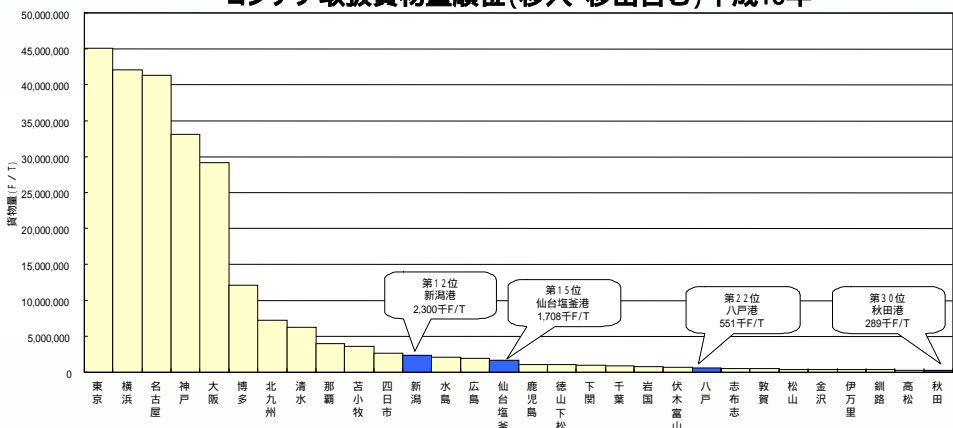


- ・国際連携やグローバル化への対応
- ・格差社会の進展
- ・若者の圏域外流出

海上輸送等全国シェアは僅か
情報、医療、職場、所得等、生活格差が存在
高校卒業者の首都圏就職割合が高く、人口流出大

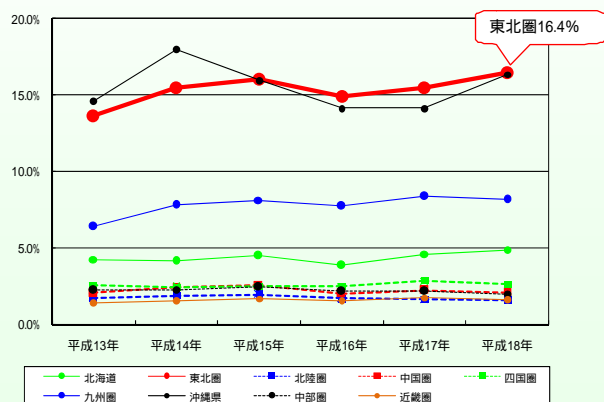
【国際連携やグローバル化への対応】

コンテナ取扱貨物量順位(移入・移出含む)平成16年



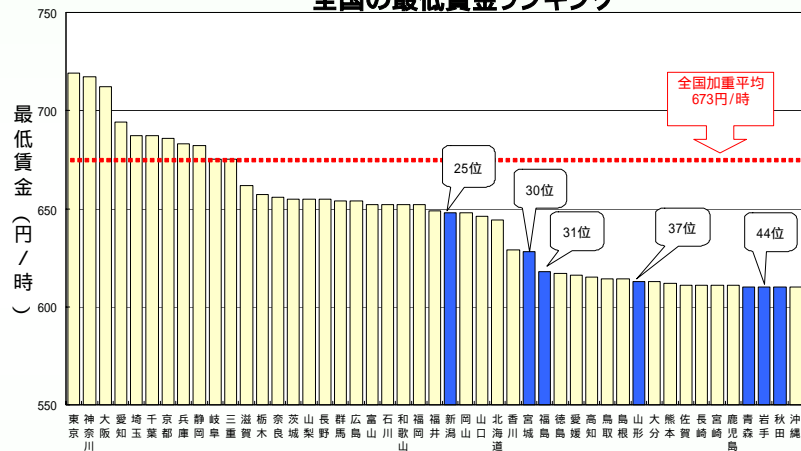
【若者の圏域外流出】

高等学校卒業者の首都圏への就職率の経年変化



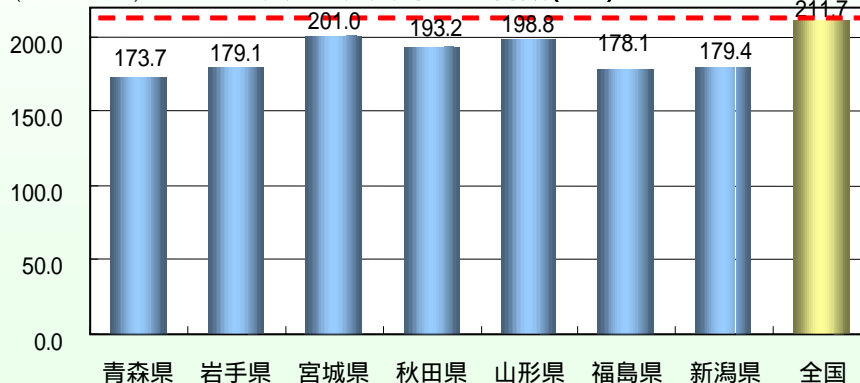
【格差社会の進展】(各県とも全国平均未満)

全国の最低賃金ランキング



【格差社会の進展】(各県とも全国平均未満)

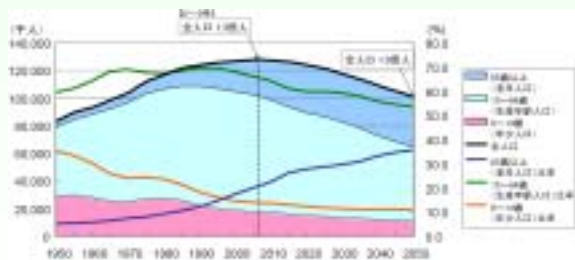
人口10万人当たり医師数(H16)



4. 全国計画における共通課題

人口の大幅な減少と急速な高齢化の進展

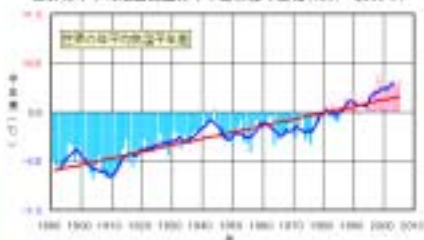
・我が国の総人口は2004年の約1億2,780万人をピークに減少局面に入り、今後本格的な人口減少社会を迎える。高齢者の割合は、2005年には20%程度であったが、2050年には40%弱まで上昇すると推計される。



地球環境の保全

・世界の人口・経済の拡大により資源やエネルギー不足の深刻化が懸念されるとともに、生態系の劣化、経済社会活動による国土や地球環境への負荷の増加などの課題が顕在化している。

世界の年平均地上気温の年平均の経年変化(1881~2009年)



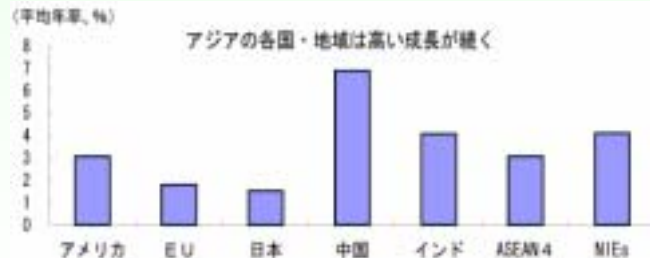
大規模災害の対応

・我が国は自然災害に対して極めて脆弱な国土条件を有しているが、特に近年は、災害の増加や被害の甚大化の傾向がみられる。また、世界有数の地震火山国であり、大規模地震・津波の発生等も懸念されている。



グローバル化と東アジアの台頭

・経済のグローバル化の進展、東アジアの急速な成長と造高度化の中で、東アジア規模での生産ネットワークの構築や経済連携の動きが活発化。



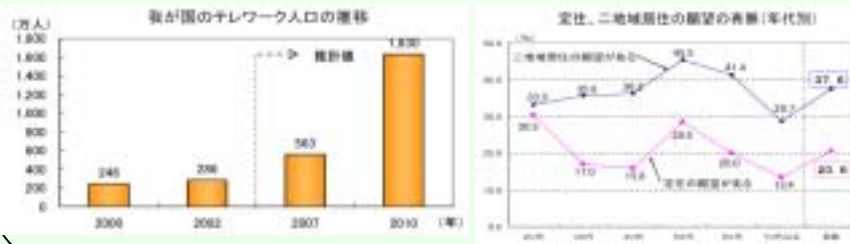
情報通信の発展

・近年の情報通信技術の飛躍的な発達生活利便性を急速に向上させ、産業の生産性を高めるとともに、人と人のつながり方など、国民生活に大きな変化を与えている。



国民の価値観の多様化

・価値観の多様化、生涯可処分時間の増加等にともない多様なライフスタイルの選択が可能になってきており、テレワークなど働き方、大都市居住者の地方圏・農山漁村への居住などの多様化の動きなどがみられる。



5. 課題総括と今後の検討に当たっての議論のたたき台

「課題総括と今後の議論に当たってのたたき台」の考え方

1

東北開発促進計画のレビュー
・東北開発促進計画(第五次)フォローアップ

2

東北圏の現状、特性と「強み・弱み」
・幹事会：検討会議発表意見
・幹事会：課題、方向性討論会

東北圏の代表される時代の潮流

東北圏の代表される魅力

〈東北圏の課題(総括)〉

全国計画を基本として

・東北圏の特性、特徴に対応する課題

(土地、水、海域、震災、水害、風害、都市、農山漁村、
産業、交通施設、情報通信施設、科学技術、文化、
厚生、観光、環境、景観など)

全国計画における共通課題

今後の検討に当たっての議論のたたき台

第1回東北圏広域地方計画懇談会

東北圏の「目指すべき方向」

5. 課題総括と今後の検討に当たっての議論のたたき台

東北圏の課題総括

域内雇用を創出する地域内循環型経済システムの構築
地域内発型の新産業創出、産業の高度化・集積、地場産業の高付加価値化
特徴ある農林水産業、農業就業人口の高齢化、1次産業等の維持・強化
広域連携・文化・歴史による観光振興
東北圏の外国人訪問率や純輸出額などの向上に資する国際連携や海外展開の具体化。

全国の2割を占める広大な面積、貴重・豊富な自然資産、豊富で良質な水などの保全と活用
美しい田園風景・山並み、海洋・海域の保全
国土の管理、歴史・文化の継承、生態系の維持

長い都市間距離、中小都市の活力低下への対応
中山間地、沿岸地域を中心とした人口減少・高齢化への対応
農山漁村や中山間地域の持続、二地域居住の拡大
既存ストックの活用、ラダー(梯子)型の地域構造の推進
海上貨物輸送の効率化、アクセス性向上による輸送コストの低減

地震・津波、風水害、豪雪に対する備え、災害ボランティア・情報の早期伝達
約85%が豪雪地帯、冬を安心して暮らせる生活、雪の有効活用
医師不足の深刻化、救急医療機関へのアクセス強化

人材の育成、活用
次世代を担う人材の流出、地域住民・NPO・民間企業等の多様な主体づくり
圏域の良さの発掘と積極的な情報発信

東北圏の代表される魅力

多彩な恵み自然・歴史・文化

今後の検討に当たっての議論のたたき台

東北圏の地域経済の持続的な発展を実現するためには、従来型の産業誘致策だけでよいのか、地域内循環型経済システムの構築を主にするべきではないか、国内外で競争力のある東北圏の産業は何か、地域に活力を与える産業を育てるためには何が必要か。

東北圏は、従来から食料、エネルギーの供給基地といわれてきているが、2050年には世界の人口が90億人を超えると予想されている中で、食料、エネルギーや地球環境問題が東北圏にとってチャンスとなりうる可能性があるのではないかと、そのためには何が必要か。

人口減少が進展する中、今後定住人口の増加が見込めない状況で、国内外からの交流人口を増やすことが東北圏に活力をもたらすものと思われるが、東北圏において交流人口を増やすためにはどうすべきか。

人口減少、高齢化の進展、厳しい財政制約の中で、医療・福祉等の社会的サービスの縮小、空き家の増加、主要産業や地場産業の衰退、市街地のスプロール化、中心市街地の空洞化、公共交通の撤退などが考えられるが、東北圏としてのまちづくりのあり方や、農山漁村のあり方、コミュニティーの維持をどのようにしていくべきか。

田畑の耕作放棄地面積が増大している中で、美しい東北の自然や田園景観を守り、また中山間地域、海洋・海域の保全などの国土を適切に管理していくにはどうすべきか。

迫り来る大規模地震、水害や土砂災害、冬季の暮らし、深刻な医師不足など、東北圏で安心して暮らしていくためにはどうすべきか。

次世代を担う優秀な人材が首都圏などに流出している現在、東北圏に集い留まり、様々な才能発揮するためにはどうすべきか。

全国計画
共通課題

人口の大幅な減少と急速な高齢化の進展
グローバル化と東アジアの台頭
地球環境の保全

情報通信の発展
大規模災害の対応
国民の価値観の多様化

東北圏の代表される時代の潮流

人口減少・高齢化